

クリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rina.maff.go.jp



No.1138 2015年1月号

迎

春



二の鎖小屋付近から見た瓶ヶ森（奥）

新年のあいさつ

四国森林管理局長 浅川京子



明けましておめでとうございます。

我が国の森林は、人工林を中心には本格的な利用期を

(直交集成板)普及のスピードアップ、木質バイオマスエネルギーの利用、国産材の安定的かつ効率的な供給体制の構築などを進め、林業の成長産業化を進めることがととされました。

四国は全国有数の森林地域で、人工林の割合が多く、森林資源が着実に増加して

ます。また、若年人口の減少が問題になっている地域の多くが中山間地域に位置しているため、これらの地域に豊富に存する森林資源を活用し、地域の主要産業である林業の振興を通じて

国有林は四国の森林面積の一割強を占めています。国有林野事業は、自ら森林を管理・整備し木材を生産する「林業事業体」であると同時に、国の政策を推進する機関でもあります。このようないくことが必要です。

この中、四国では、具体的には、低コストで効率の良い施業方式を率先して採り入れ安定的な木材生産・供給を進めるほか、國の特性を踏まえ被害の未然防止に努めます。

迎えており、国内の豊富な森林資源を循環利用することが重要な課題になっています。このための方策として、昨年の「日本再興戦略」においては、国産材CLT

の伐採とその後の森林づくりを進めていく必要があります。また、森林も増えてきています。地球温暖化対策として森林の若返りを図るためにも木の伐採とその後の森林づくりを進めていく必要があります。また、森林は、人工林

として、森林資源が着実に増加してきています。大型製材工場や木質バイオマス発電所の操業開始、産学官によるCLTの開発普及など、豊かな森林資源の

利用や林業の振興につながる動きが活発になつてきました。各県でもこれらの動きを後押しすべく、国産材の生産体制を整備し、供給を増やそうとしています。

国有林は四国の森林面積の一割強を占めています。国有林野事業は、自ら森林を管理・整備し木材を生産する「林業事業体」であると同時に、国の政策を推進する機関でもあります。このとともに、昨年の台風などによる被災した山地の早期復旧や災害リスクの多い四国においては、木材需要の拡大や木材流通の合理化などを進める先に木材を販売することを通じて、四国の林業の飛躍のために力を尽くします。また、林業経営改善に資するような先進的な技術の開発普及や森林・林業経営を担う人材育成に取り組みます。さらに、問題になつているシカなどの鳥獣害対策に関係者とともに取り組むとともに、昨年の台風などにより被災した山地の早期復旧や災害リスクの多い四国の特性を踏まえ被害の未然防止に努めます。

本年においても、国有林野事業の運営を通じて、地域の振興に貢献して参りました。このことは、よろしくお願い申し上げます。

「国有林モニター勉強会」を開催

一月二七日に、平成ニタリ一五名が参加されま
した。

ター勉強会を開催しまし

最初
した。



間伐事業ヶ所の見学の様子

A group of loggers wearing white hard hats and safety vests are gathered around a red log loader. One logger is operating the machine, while others stand by, some holding logs. The background shows a dense forest.

心に聞き入っておられ、活
発に質問や意見を述べられ
るなど、森林整備について
理解を深められていました。

午後は、四国森林管理局

〈企画調整課〉



森林教室体験の様子

感できたので頭に入りやす
かった。」等の感想をいた
だき、大変有意義な勉強会
となりました。

民官協働の大規模な

シカ捕獲を二嶺山系で実施



ニホンジカ（以下「シカ」）	での捕獲目的として、平	による被害が深刻化する三	成二五年一〇月に、森林管
嶺山系では、平成一九年度	理局、高知県、香美市、香	森林環境教育について、そ	の取組紹介を行い、実際に
から、関係機関・団体や地	域住民等が連携して、防護	ブローチを作成する等、森	り組んでいます。
対策やシカ捕獲に懸命に取	機関・団体が「三嶺シカ捕	林教室を体験していただき	しかしながら、通常の方
獲実行委員会」をつくり、	獲実行委員会」をつくり、	ました。	となりました。

今回の勉強会について、法では捕獲できないアクセラ、「林業の機械化が思つて、逃げ込み場・繁殖地等となり被害対策の障害となつて、法では捕獲できないアクセラの悪いエリアが、シカの獲方法の概要是、捕獲区域を、西熊山附近の稜線から実行委員会で決定した捕

いた。」「説明だけでなく体
いる」とから、このエリア
一五〇ha 設定し、登山団体

が勢子（捕獲支援班）となつ

て、稜線から猟友会（捕

獲班）が待つ谷までシカを

追い込むこととし、自衛隊

が、現場と本部間の通信連

絡と、ヘリによるシカの動

向の偵察でサポートすると

いう作戦です。

本作戦は、猟銃の使用はも

とより、勢子が道なき急傾

斜地を下降すること、多く

の機関及び人数が参加する

こと等から、特に安全の確

保に万全を期すため、予行

演習（発砲以外全て実施）

や検証及び対応策について

協議を重ねる等長期に渡つ

て準備を進め、一月一六

日に捕獲本番を実施しまし

た。

本番当日の参加者は、局

署（高知中部、徳島）職員

一名を含む約二〇〇名と



捕獲班（猟友会待機中）



なり、早朝四時からバス等

で森林管理局等より各配置

箇所へ出発し、六時には、

三嶺山系の展望所に、前日

から自衛隊が設営してくれ

た天幕に現場本部を立ち上

げました。

現場本部は、捕獲支援班、
捕獲班、入山者の安全を確

保する監視班等と連絡を取

り各班の状況を把握しつつ、
捕獲支援班の追い込みス

タート地点への配置が完了

した一時に捕獲開始を指

示し、シカの追い込みと捕

獲が始まりました。

捕獲は、捕獲支援班が追

い込みの最終ラインに到達

した一時頃まで実施し、

シカの目撃頭数は二〇頭以

上ありましたが、捕獲成果

は、一一時三〇分までに捕

獲した四頭となりました。

これは、安全確保のため追

い込み最終ラインは捕獲班

から標高一〇〇m程度上に

設定していること、捕獲区

域内に捕獲支援班が追い込

みできない三つの大きな谷

があること等から、捕獲班

が発砲できる場所まで下降

したシカが少なかつたこと

等が考えられます。

本作戦は、全員が無事登

山口へ下山した一五時三〇

分をもって終了し、参加者

は、香美市林業婦人部の炊

き出し支援でふるまわれた

おいしい猪汁を頂いたあと



らは、三嶺の森を守るため

に、多数の民官の機関・団

体が一体となつて取り組み、

無事作業を終えたことに高

い評価を頂いたところであ

り、引き続き、より安全で

成果をあげる取組とするた

めに、今回の事業の検証及

び改善策等について、関係

機関・団体と協議・検討を

進めることにしています。

捕獲支援班等移動中
(三嶺林道終点から入山)

昨年末、高田弘之さん（昭和六三年 安芸宮林署長を最後に退職・仰山会会員）から、四国の形状を醸し出している魚梁瀬スギの根盤を寄贈して頂きました。

当時、根株は不整形で辺材部は腐朽が進んでおり、朝に夕に根盤を磨き上げた話も伺いました。



昨年末、高田弘之さん（昭和六三年 安芸宮林署長を最後に退職・仰山会会員）から、四国の形状を醸し出している魚梁瀬スギの根盤を寄贈して頂きました。

現在、高田さんは、愛媛県宇和島市に住居を構えられています。この度の魚梁瀬スギ根盤の寄贈について、高田さんには局長から感謝状を贈呈させて頂きました。

平成二十六年度
第二回技術開発委員会



根盤の前で感謝状を手にされた高田さん

一二月一二日、四国森林管理局技術開発委員会運営要綱に基づき、技術開発の計画年度第二回目の技術開発委員会を開催しました。

当委員会は、四国森林管

理局技術開発委員会運営要綱に基づき、技術開発の計画・評価・方法等について意見を聞くもので、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

今回は、平成二十六年度中に実施した課題の内、完了報告一課題（囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験）、中間報告一課題（下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証）、平成二十七年度新規課題二課題（①モウソウチク林整備の一考察について



技術開発課題に貴重な意見

「平成二十六年度第二回技術開発委員会」を開催

森林技術・支援センター



シカ食害低減効果検証調査区



モウソウチク林整備試験地

て、②竹を利用したシカ食害対策について）の計四課題について審議を願い意見を伺いました。

委員からは、

完了報告課題「囲いわ

なによる効率的なシカ捕獲試験」では、捕獲率向上に向けた誘引方法の更なる工夫とデータ収集・分析、小型囲いわなの更なる普及に期待してい

中間報告課題「下刈省
力化によるシカ食害低減
効果の検証」では、下層
植生やシカ生息状況の異
なる地域毎のデータと調
査期間の長期化が必要で
ある。

二月六日、高知市立神田小学校において森林・木工教室を行いました。このイベントは、各学年の保護者が主催し、「一日先生」として、色々な職種の方々を講師として招くもので、去年に引き続き、一年生生の保護者から要請を受けていたので、教室を行いました。一年生には、少し難しい問題もあ

当日は、児童一一三名、木工の保護者一〇〇名、先生四名と昨年に増して大人数ということもあり、森林の役割や大きさについて「〇×クイズ」形式にした森林工教室を行いました。

田小学校において森林・木工教室を行いました。このイベントは、各学年の保護者が主催し、「一日先生」として、色々な職種の方々を講師として招くもので、去年に引き続き、一年生生の保護者から要請を受けていたので、教室を行いました。一年生には、少し難しい問題もあ

りましたが、一人で一生聞ける命考える子、親子で悩む子難なくすらすらと答える子と様々で、一門ずつ答えさせをする度に、「やつたー」正解やー。」と歓声が上がり大変な盛り上がりでした全問正解者が半数以上となに聞いてくれていました。

鳴らし終わった子ども達からは、「なんで音が鳴るが?」と不思議そうだった。そこで、このセミがどうして鳴くのか、少し、音の伝わりについても、学習しました。

最後は、OB正岡さんの手作りの木のおもちゃ(バルやゲーム、けん玉など)



森林教室の様子



木工教室は、糸電話を応

て」では、竹を単に立て
るだけでなく、どのよう
な状態に立てれば効果的
か、多くの方法を考え試
す必要がある。

貴重な意見等を踏まえて、
今後の試験設定のあり方な
ど技術開発に活かして行く
が出来ました。

A wide-angle photograph of a classroom filled with approximately 30-40 children. They are all focused on their work, which appears to be wooden projects, possibly bond boxes as mentioned in the text. The room has large windows in the background, and the children are seated at various stations around the room.

鳴らし終わった子ども達からは、「なんで音が鳴るが?」と不思議そうだった。そこで、このセミがどうして鳴くのか、少し、音の伝わりについても、学習しました。

最後は、OB正岡さんの手作りの木のおもちゃ(バルやゲーム、けん玉など)